

健康・福祉・子育てに関する
情報をお知らせします。

平成23年度

「健診受診希望調査」を

実施します

健診で 家族の幸せ

いつでも

(平成22年度健康づくり標語入選作品)

健康診査(健診)は、年に1度、健康であるかを確認できる唯一のチャンスです。

町では、皆さんが安心して受けることのできる健診を目指しています。

なぜ健診が必要なのか？

①体の現状を確認し、生活習慣を直すため

生活習慣病は、食生活・運動習慣等の生活習慣の積み重ねが原因で発病し、症状がなくても徐々に身体に変化をもたらします。脳卒中・心筋梗塞

「健診受診希望調査票」の提出方法

- ① 皆さんのお手元に、郵送にて健診受診希望調査票が届きます。

対象者	送付時期	提出期限
40歳以上の男性	4月上旬	4月30日
20歳以上の女性	4月上旬	4月30日
国民健康保険に加入する30歳代の男性	4月上旬	4月30日
国民健康保険に加入する40歳～74歳の方	発送済み	2月28日

●同封されている書類

- 健診受診希望調査票 (1人につき1枚)
- 平成23年度健診日程表・返信用封筒等



- ② 記入方法を見ながら、健診受診希望調査票を記入してください。

- 希望される健診日に「○」をしてください。
- ※希望された健診日をメモしておきましょう。



- ③ 同封の返信用封筒に入れて提出期限までに必ず返送してください。

- ※切手は不要です。



- ④ 希望日の数日前に、町から受診票と問診票が届きます。

- ※健診当日は、保険証・受診票・問診票を必ずお持ちください。

※お問い合わせ先

町保健福祉センター はあとぴあ ☎32-3111

等にもつながる可能性がある病気になるので、生活習慣の見直しと定期的な健康チェックが大切です。

②がんを早期発見するため

美浜町でも4人に1人が、がんで亡くなっています。

しかし、早期であれば治療が可能であり、回復も早くなります。



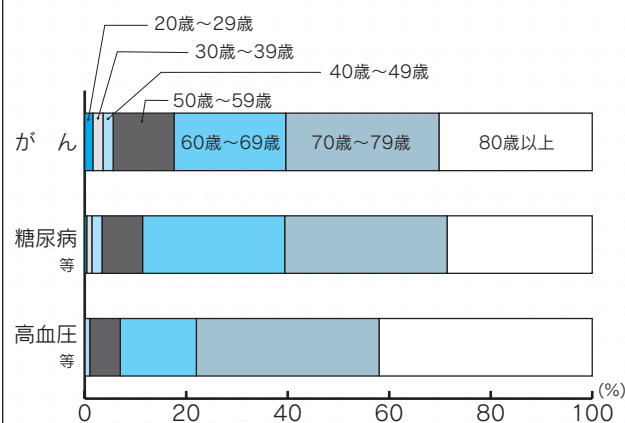
40歳をすぎると、生活習慣病が増え始めます。

だからこそ、40歳までの予防が大切です!

※町では、40歳未満の方を対象にした健診も実施しています。

疾病別にみた年代の割合

(国民健康保険疾病分類)



美浜町国民健康保険調べ (平成21年5月分)



おしゃべりしましょ♪

か わいとお子さんと過ごす日々は、毎日が発見の連続ですね。そんなお子さんの成長について、みんなで集まっておしゃべりしてみませんか？

支援センターでは月に2回、生後から1歳までのお子さんを持つ保護者の方を対象に、「おしゃべりしましょ♪」という集まりの場を設けています。初めて参加された方たちも、他のお子さんの成長の様子やかわいいしぐさ等についての話を聞いているうちに、自然とおしゃべりの輪の中に入っておられますよ。

また、センターの職員がお子さんと一緒に楽しめる遊びを紹介したり、日頃センターで聞く保護者の方々の悩みについてみんなで話し合ったりもしています。

その他にも、「どこでオムツを買ってるの？」や「病院はどこに行っているの？」等、子育てについての情報交換も、とても盛り上がっていますよ！

リフレッシュの場やつながりの場、そして、子育て相談の場として、同世代のお子さんを持つ保護者同士で、またセンターの職員と一緒に、楽しくおしゃべりしてみませんか？

お子さんと一緒にぜひ遊びに来てくださいね。

～「おしゃべりしましょ♪」のご案内～

- ▶ 日時 3月1日(火) 午後1時30分～2時30分
場所 子育て支援センター
- ▶ 日時 3月22日(火) 午後1時30分～2時30分
場所 はあとぴあ

※4月からの日程等は、機関紙「さくらんぼ」でご確認ください



※お問い合わせ先
子育て支援センター ☎32-0192



たいじょうほうしん

帯状疱疹 ～厄介なヘルペスウイルス～

過 労や老化、免疫力が低下した際に、ここぞとばかり見られる発疹があります。弱い体をいじめるかのようなこの発疹は、その見た目から、帯状疱疹と呼ばれています。



帯状疱疹とは？

字のごとく、赤い発疹が連なって帯状に並びます。整列している姿は、一見、行儀のいい病気かと思われそうですが、かなりの痛みをともなう厄介者です。

ヘルペスというウイルスが病気の原因ですが、このウイルスの特徴は神経に感染するところです。そのため、発疹が出る前の前兆として、神経痛だけが認められることもあます。痛みだけの症状ゆえ整形外科を受診してしまう患者さんがいるほどです。感染する神経の場所によっては、神経痛だけでなく、神経の麻痺症状や目まいを引き起こす場合もありますので、注意が必要です。

後遺症が残る

この病気の困ったところは、後遺症を残すということです。皮膚の発疹は治っても、神経痛だけが後遺症として残ってしまうのです。なかなか完治するのが難しいと言われていて、発症後ずっと痛み止めの薬を服用する事態に陥ることも珍しくありません。

「痛みをともなう」「きれいに並んだ発疹」を見たら、必ず医療機関を受診し、ヘルペスウイルス治療薬を用いることをお勧めします。

※お問い合わせ先
東部診療所(村寄医師) ☎37-2911

町誌よもやま話

(135)

『わかさ美浜町誌』の編纂を終えて

福井県立図書館（福井市下馬町）は1日に3千人の利用者がある、全国でも有数の図書館として知られています。その郷土資料のコーナーには、県下の市町村でこれまでに刊行された自治体史誌が全巻揃えられており、ぎつしりと詰まった福井県の歴史がまるでパノラマのように閲覧できます。

その一角にわが『わかさ美浜町誌』が並び始めたのは、遅ればせながら今から10年前の平成13年（2001年）からで、今では他を圧するように確固とした美浜町の存在を静かに主張しているようです。全11巻にも及ぶ町誌は全国的にも2、3しかなく、当町の底力を強く発揮しているともいえます。決してお国自慢などではなく、棚の前に立てば豊かな美浜町の歴史と文化に自信と誇りを与えられることでしょう。また、そうあつてほしいものです。

当時、編纂委員会の委員長に就任するにあたり、名うての編集者でもあり、師にあたる民俗学者の谷川健一先生に相談したところ、「長大な町誌に取り組むのはいいが、終いには命を取られるぞ」と

脅かされましたが、なにぶん生来の楽道家のためか、この間何事もなく大過なく過ごさせていただきました。これひとえに町民の皆様方をはじめ、町当局、編纂室、監修者、編纂委員会の委員、多くの執筆者のご協力とご尽力、ご理解の賜物と心より感謝いたしております。

さて、美浜町誌は「美浜の文化」8巻と「美浜の歴史」3巻の全11巻で構成されており、大変ユニークな自治体史として

専門家から注目され、評価されてきました。最終巻の児童向けの『美浜をさかのぼる』美浜の歴史読本（は、外国語版（英語・中国語・韓国語）の別冊も併せて刊行されますので、国際化を迎えた美浜町の観光パンフレットとしても今後大いに活用していただきたいと思います。なお、付録として全巻の総索引もあり、検索に便利です。

この企画を提案された須田悦生監修者の意図、

すなわち美浜町の将来を担っている子供たちの健全な育成と、国際化に向けた貴重な観光資源・文化資源の重要性を改めて知っていただき、2代にわたる町長の公約として刊行された町誌を今後の町づくりに大いに活かしてほしいものです。

（美浜町誌編纂委員会委員長 金田久璋）



↑県立図書館の郷土史コーナーに並ぶ美浜町誌（中央）

文芸欄

短歌

雀の巣猛暑をしのぎ秋の孵化
荒ぶ底に雛鳥の声

池本しげる（河原市）

厨辺に初日さし込みしろがねに

光る蛇口に若水を汲む

瀨野信江（久々子）

いつしかに番となりしいそひよ鳥

春の朝の空を連れゆく

三浦豊子（河原市）

紅梅の咲き初む枝を渡りゆく

小鳥ひとつの影を目に追ふ

山口正子（気山）

いとし孫よ希望の巣立ち寿ぐも

忘るるまじぞ生れし故郷

山本善昭（竹波）

